

“日清食品カップ”広島県小学生陸上競技交流大会 打ち合わせ事項

指導者・引率者の集まるミーティングはありません。この打ち合わせ事項を熟読してクラブ・団体の選手児童・保護者にお伝えください。

- 原則：①風邪の症状(発熱, 咳, 鼻汁, 咽頭痛, 頭痛等)がある選手児童や引率者保護者等は, 大会に参加させないことを徹底する。
②無観客で行う。選手・引率者・1名の選手児童に対して1名の引率保護者・大会役員は書類を提出して参加可能とする。
③競技終了後、順次帰宅する。(但し入賞者は表彰がある)。

- 受付 午前8時30分～午前9時(正面玄関) クラブ・団体代表者1～2名。
 - * アスリートピブス(ゼッケン)は主催者側で用意したものを使用する(郵送済)。
 - * 参加賞(ひよこ)は受付後、雨天練習場で参加申込人数分を渡します。
 - * 選手承諾書(様式A)と保護者引率者体調管理表(様式B)をクラブ・団体でまとめて提出する。
遅れてくる選手も居ることから12時までには受付に提出すること。また、リボンはクラブ・団体でまとめて受付に返却すること。

○開会式・閉会式は実施しない

- コール(招集)・・・100mスタート付近
 - ・プログラム記載の時刻設定(招集開始時間と招集完了時間)をよく確認する。遅れないように指導する。選手のみ招集して引率保護者は離れこと(密を避けること)。
 - ・○付け作業は無し(書類の張り出しはしない)。棄権の場合は招集時に同じクラブの者が競技者係に伝えること。招集完了時間に居ない場合は棄権と判断する。

- ウォーミングアップ
 - ・9:30まではトラック全体を開放する。
 - ・9:30以降、バックストレート側・多目的グラウンドで行ってもよい。

- スタートのルール
 - ・同一人が2回のフライングを犯した場合, 失格となる。
 - ・スタートはイングリッシュコールとする。

- 5, 6年生100m
 - ・腰ナンバーカードを使用する。(招集場で付ける)
 - ・フィニッシュ後は直線ではなくカーブを描くようにスピードを落とす。
 - ・A決勝(予選1～8位)・B決勝(9位～16位)を設ける。

- 80mハードル
 - ・規格や台数などすべて全国大会仕様(高さ70cm 1台目まで13m—ハードル間7m 9台)

- 混成4×100mR
 - ・走順は自由(男子2名、女子2名)。リレーに出ない男女各1名は友好100mに出場することが出来る(補員)。
 - ・テイクオーバーゾーンは基準点から手前20m後ろ10mの合計30mとする。
 - ・テイクオーバーゾーン外から走り出してはならず、ゾーンの中でスタートしなければならない。
 - ・受付時にオーダー表を提出すること(11時まで)
 - ・予選上位8チームによる決勝を行う。

- コンバインドB(走幅跳)
 - ・試技2回(練習2回の予定)2ピットで運営する。
 - ・スタンド下などを活用し、暑さや雨などから自分を守るようにする。

○コンバインドB(ジャベリックボール投げ)・・・やり投げピット

- ・試技2回(練習2回の予定)。
- ・やり投げピット, 助走15m以内。
- ・ニシ製のポーテックスフットボールを使用する。
- ・競技前に手洗い・手指消毒してから競技を行う。

○コンバインドA(走高跳)

- ①走高跳の跳び方は「はさみ跳び」とする。
- ②走高跳は、自分が申告した高さから試技を開始し、同じ高さを2回失敗した時点で終了とする。
本大会は開始を90cm、その後115cmまでは5cm刻みで上げ、115cmから3cm刻みで上げていく。
スタートの高さは審判員に申し出る。
- ③小学生用の走高跳マットを使用する。

○指導者の助力・助言

- ・原則として、グラウンドレベルには降りることはできない。

○プログラム販売

- ・1部300円・・・9:00以降に販売。

○リザルト(レース結果)

- ・各レース終了後にインターネットでアスリートランキングに掲示。
- ・当日のリザルトの紙媒体の掲示はしない。(密を避けるため)
- ・後日、広島陸上競技協会のホームページでリザルト提示。

○児童選手への指導

- ・自分のナンバーなどプログラムでよく確認させる。
- ・コールではナンバーカードを審判員にしっかり見せる。
- ・声を出しての応援はしないように。拍手などで応援する。
- ・競技会のエチケットやマナーを指導する。
- ・審判員の指示に従う。(審判員には指導も含めて依頼してある)
- ・競技がないときは出来るだけマスクを着用する。ソーシャルディスタンスが取れている場所や熱中症対策としてならマスクを外してもよい。(密にならないように気をつける)

○ごみ処理

- ・競技場にごみを残さないように、自分で持ち帰る。
- ・特にマスクだけは各自で処分する。

○大会の中止について

- ・大会当日、午前6時の時点で開催市に「大雨警報・洪水警報・暴風警報」のうち1つでも発表されている場合や、大会前日午後5時以降開始時まで開催市に「震度5弱以上の地震」が発生した場合には、大会を中止する。ウイルス性の感染症等や悪天候等を含む、競技会の運営および安全確保に支障をきたす不可抗力事態が発生、または発生する恐れがある場合は、主催者は必要に応じて大会中止、一部中止、日程変更、試技回数等を含む競技会の内容を変更することがある。

○その他

- ・盗撮行為や不審者は、大会総務まで連絡する。
- ・個人情報保護の観点から、大会の動画・写真はSNSやYouTubeなど、インターネット上に掲載しない。
- ・受付・招集場・スタート・フィニッシュ・各競技場所などアルコール消毒液を設置する。

<大会実施時の感染防止策について>

(1) 感染源を絶つ

○主催者は、風邪の症状(発熱、咳、鼻汁、咽頭痛、頭痛等)がある選手や引率者保護者等は、大会に参加させないことを徹底する。

○主催者は、出場する選手の1週間分の体調を記録した体調記録表(様式A)、引率保護者の1週間分の記録した(様式C)の記録を求め、健康管理を徹底する。

○大会中、選手や引率者等に体調不良がある場合は、大会本部に申し出るよう場内アナウンス等で確認を促す。

○主催者は、引率保護者・引率者に対して引率者来場者体調記録表(様式B)に、氏名・年齢・住所・連絡先(電話番号)・検温した体温・来場前2週間におけるア:平熱を越える発熱、イ:咳や喉の痛みなど風邪の症状、ウ:だるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難)、エ:味覚や嗅覚の異常、オ:過去14日以内に政府から入国制限や入国後の観察期間を必要とされている国や地域などへの渡航歴及び当該在住者との濃厚接触の有無の確認と、来場後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに報告することを確認する。

○引率者保護者等は、集合時、更衣後、ウォーミングアップ終了後、試合前後、昼食時、解散時等、こまめに、選手の体調不良の有無を確認する声かけを行うなど、集合時から解散時まで健康観察を徹底する。

○主催者及び引率者等は、大会中に、選手の体調不良を確認した場合、大会救護係や医療機関及び保護者等と連携し、当該選手の体調を確認するとともに、安全に帰宅させるなどの対策を講じる。

(2) 感染防止の3つの基本

ア. 身体的距離の確保

○開閉会式等は実施しない。また、抽選会等は、本人か代理で必要最小限の人数によって行う。

○主催者は、引率者会議等を実施する場合、人と人との間隔が、できるだけ2メートル(最低1メートル)空くよう、椅子の配置を広くするなどの工夫をする。

○引率者等は、集合時、待機中、休憩中及び食事中などにおいて、選手同士の間隔が、できるだけ2メートル(最低1メートル)空くように指導する。

○主催者、指導者等は、対戦相手や審判等との握手、仲間と手をつないだり肩を組んだりして行う円陣、ハイタッチなどの実施を制限する。

イ. マスクの着用

○主催者は、選手、引率者等及び大会関係者に、マスク等を準備させ、大会中は、競技等実施時及び食事中等を除いて、基本的にマスク等を着用し、咳エチケットを徹底するよう指示をする。ただし、活動中や気候の状況等より、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外すよう選手に指導する。

○マスク等を着用して運動を行う場合には、同じ運動であっても、体へ高い負荷がかかり、低酸素症や熱中症などのリスクが高まるため、主催者や引率者等は、会場の気温や湿度に注意しながら、選手の健康観察を行うとともに、こまめに給水をさせる。その際、給水用のコップ等を共用させない。

ウ. 手洗い等の徹底

○主催者は、選手、引率者等及び大会関係者が、こまめに手洗いを行えるよう、利用する施設と連携し、場内アナウンス等で、選手や引率者等に手洗いを促す。

○引率者等は、集合時、更衣後、ウォーミングアップ終了後、試合前後、昼食前後、解散時等、こまめに、流水と石けんで手洗いを行うよう、選手に指導する。

○審判控え室・受付・スタート・ゴールなどアルコール消毒液を用意する。

(3) 3つの「密」(密閉空間、密集場所、密接場所)の回避

○原則、無観客試合とする。なお、試合会場への入場は、参加クラブからは、出場選手として登録された選手+1名の選手に対して1名の引率保護者+指導者とする。

○チームでまとまって会場へ移動する場合、引率者等は、バス等の車内が、密閉空間にならないよう、運転手と連携し定期的に換気をしたり、1台に乗車する人数を減らしたりするなどの工夫をする。

○主催者は、更衣室で選手が密集しないよう、一度に利用できる人数を制限し明示する。また、更衣室内に選手同士の間隔ができるだけ2メートル(最低1メートル)空くようにするとともに、更衣室の換気扇を常時運転したり、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮する。

(4) 安全な活動環境等の確保

○主催者は、参加クラブ・団体に対し大会の主旨、感染拡大予防ガイドラインを周知徹底する。大会に参加する選手及び保護者に対し、参加に当たっての注意事項等を事前に説明し、保護者承諾書(様式A)を提出させる。その際、大会申込期日までに定期健康診断の実施が行なわれていない者については、各自で健康診断を受診するなど保護者の責任のもと健康上問題がないことを確認したうえで参加させる。

○引率者以外の競技役員は、来場者体調記録表(様式B)を役員受付時に提出する。

○社会体育施設を利用して大会を実施する場合は、「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」(スポーツ庁)に則り運営する施設を選定し、感染拡大予防対策について、事前に施設と打合せを行う。

○主催者及び選手・引率者等は、大会に向けて適切な感染防止策を行うため別紙「陸上競技大会実施時の感染防止対策チェックリスト」に沿って行う。